

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591300060		
法人名	社会福祉法人 同朋福祉会		
事業所名	認知症対応型グループホームゆいしん		
所在地	山口県美祢市大嶺町東分1707-2		
自己評価作成日	令和2年5月20日	評価結果市町受理日	令和2年9月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
聞き取り調査実施日	令和2年6月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎朝、職員と一緒に各居室や廊下・食堂の掃除を行っています。掃除道具はそれぞれご利用者が自分で選び掃除に取り組まれています。またDVDを活用し30分程度の椅子に座って行えるリハビリ体操も午前中に実施しています。天気の良い日は施設の周りや近くの神社まで散歩に行き筋力低下の予防に努めています。外にはベンチがあり座って休んだり景色を眺めたり、気分転換が出来るお気に入りの場所となっています。傍には野菜や花を植えたプランターがあり散歩の前後に水やりなどのお世話をされています。育っていく野菜を見てもうすぐ食べれると心待ちにしておられ、食事の際は採れたての野菜を味わって頂いています。季節を体感出来るように旬の物を頂いた際は皆で協力しています。筍の皮むきや切り干し大根作り、干し柿作りなど楽しみながら取り組んでいます。また遠く離れて住むご家族が多い為、毎月、ご利用者の様子を書いた手紙と写真を送り、近況を伝えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

週1回、利用者に食べたいメニューを聞いて献立を立てられ、畑で育てた野菜や差し入れの旬の食材を活用されて、利用者職員と一緒に調理しておられる他、お誕生日や季節の行事、花見弁当、道の駅やファミリーレストランでの外食、パン屋での買物、吊し柿や切り干し大根づくり、おやつづくり(たこ焼き、焼きそば、プリンなど)、外のベンチでのおやつタイムなど、食べることが楽しみなものになるよう工夫して、支援しておられます。多くの地域のボランティアのご協力を得られて、拠点施設と合同で納涼祭や敬老祝賀会、ともの園フェスタ、忘年お楽しみ会などを開催されたり、地域の僧侶による法話や近隣の幼稚園との交流、もちつきなど、利用者が地域との交流を楽しんでおられます。職員は、利用者の水分補給や衣類の調整など、家族のように心配りをされて健康管理に気をつけられ、月1回のドライブ外出などの支援に取組まれますと共に、日頃から食事の準備や片付け、部屋の掃除、花や野菜を育てる、散歩や体操で体を動かすことなど、利用者が日常的にできることを、笑顔と明るい声かけで支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえ、唯心全体としての理念は毎日の合同朝礼にて復唱し事業所内に掲示している。グループホーム職員全員で話し合った理念を事業所内に掲示し、職員全員が理念を共有し協力しあっている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、法人の理念と共に事業所内に掲示し、毎日の合同朝礼で交互に唱和している。地域に開かれる事業所を目指し、職員は「優しい心、ふれあう心、温かい心」を大切にして支援するよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月認知症カフェが施設内で実施されており出来る限り出席している。また当施設においても、施設行事を通じて、地域の方に呼びかけコーラス・日本舞踊など披露して頂いている。近隣の幼稚園とも交流があり園児と一緒に歌う事もある。	拠点施設の行事(唯心花祭り、夏祭り、納涼祭、敬老祝賀会、ともの園フェスタ、忘年お楽しみ会、初釜の会、新年お楽しみ会、ひな祭り)への参加、拠点中央ホールにボランティア(コーラス、日本舞踊、銭太鼓、3B体操、法話(年4回)など)が来訪し地域の人や併設施設(特別養護老人ホーム、小規模多機能型居宅介護事業所)の利用者、家族と交流している。近隣の幼稚園児の来訪があり、歌などを一緒に楽しんでいる。日常的に同施設内にある特別養護老人ホームや小規模多機能型居宅介護事業所の利用者とは行き来をし交流している。近隣の散歩時や買い物時に、地域の人と挨拶や言葉を交わしているなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に外出(買い物・散歩・ドライブ)等を行う際には、積極的に挨拶を交わし、地域の方々と交流を図るようにしている。認知症カフェでは外部の方々のご利用者が交流を深めることが出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を実施することで、忙しく惰性で仕事をしていた所や日頃振りかえることの出来ない自分たちの実情を改めて見つめる機会となっている。自己評価によって気付いた点や反省点について今後は、より良いケアの向上に繋げたい。	自己評価は、管理者が職員会議で評価の意義について説明し、職員全員に評価のための書類を配付して、記入後に職員会議で項目について話し合い管理者がまとめている。自己評価をすることで日頃のケアのふり返りにつなげている。前回の外部評価を受けて、目標達成計画を作成し、内部研修で年2回、救急救命士から緊急時の対応(心肺蘇生術、AED実技)を学んでいるなど、具体的な取り組みに活かしている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において話し合った事柄や意見や提案はすぐに聞き入れ、サービス向上に繋げていけるように努めている。参加者には一人ずつ意見を聞いている。消防署の方から災害、火災時の避難等についても助言等いただいている。	会議は年6回(内1回は新型コロナ拡大防止のため書面会議)開催し、現況や活動状況、防災訓練、外部評価等について報告して意見交換を行っている。メンバーから、地域行事の情報を得たり、法人の行事の紹介や参加依頼を行って、地域との交流につなげている。消防署職員から、日頃からの防火の心がけについて指導を受けるなど、サービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町担当者や地域包括支援センター職員とは運営推進会議を含め、折に触れ連絡を取り合い、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝え助言や情報交換を頂きながら、協力関係を築く努力をしている。	市担当者とは、運営推進会議で意見や助言を受けている他、電話やFAX等で確認したり事故報告等で直接出向しているなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議などで、利用者の入居状況やケアサービスについて相談しているなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修において定期的に身体拘束について学ぶ機会を設け理解を深めている。当施設においては、常に玄関は開放している。また、外出したいときには職員に声をかけて下さるように張り紙をしている。職員間でも常日頃から話し合っている。	職員は、拠点事業所の研修で年4回、身体拘束や虐待防止について学び、理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束適正化委員会を年4回実施している。職員はスピーチロックのない言葉かけに配慮し、気になるところは職員同士で注意し合っている。玄関の施錠はせず、利用者が外出したい時には職員と一緒に外出したり、拠点職員が協力して見守りをするなど工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修において定期的に虐待防止について学ぶ機会を設け理解を深めている。日常の声掛けやケアにおいても、スピーチロック等職員間でお互いに気を付けている。職員間でも共通の認識が出来るよう努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市が開催する日常生活自立支援事業や成年後見制度についての研修会には管理者が参加し、学んだ内容については、資料等を職員間で共有している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を伺いながら、十分な説明を行い、理解・納得が出来るようにしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口や受付体制について契約時にきちんと説明し、施設玄関に明示している。常日頃から利用者、ご家族に意見や要望を伺いながらすすめている。苦情や相談については速やかに対応している。	契約時に苦情の受付体制や処理手続き、第三者委員等について家族に説明している。毎月、家族に利用者の様子がわかる写真と近況を知らせる手紙を郵送し、面会時や年2回の家族会、運営推進会議や行事の参加時、電話等で意見や要望を聞いている。出された要望や意見は伝達ノートで職員が共有し、ケアに関する要望にはその都度対応している。家族から利用しやすい外出先(店舗)の提案があり、利用者とお出かけを楽しむことができたなど、意見をサービスに反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から伝達ノートに意見や提案、要望等を誰もが書き込めるようにしている。月に一度の幹部会議において、理事長や施設長に対してグループホーム内で出た意見や要望・提案を伝え運営に反映している。	月1回の職員会議や朝夕の申し送り、「伝達ノート」で職員の意見や要望を聞く機会を設けている他、日常の業務の中で意見や提案を出し合い、職員全員で検討している。管理者は必要に応じて月1回の幹部会議で報告し、職員の意見を反映させるよう取り組んでいる。かき氷や綿菓子づくりを楽しむレクリエーションや、外出支援のドライブ先の検討など、職員の提案や意見を反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の家庭状況や身体状況を理解し、労働時間や勤務内容等働きやすい環境作りに努めている。各自が抱える悩みや思いについても話を聞き、やりがいを持って働けるように努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回施設内研修を行っている。また法人全体として外部の講師を招きまなびセミナーを年2回行っている。参加出来なかった職員には資料を回覧している。外部研修についても職員に情報を伝え受講で出来る機会を設けている。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供している。今年は実践者研修、ゲートキーパー養成研修、在宅医療介護連携推進のための多職種研修会等に参加している。法人研修は、年2回学びセミナーとして外部講師を招聘して開催している。内部研修は、拠点施設内研修として月1回、職員倫理、観察のポイント・記録の書き方、感染予防、熱中症対策、緊急時の対応、介護実技、身体拘束、虐待防止、権利擁護、事故防止などについて計画的に実施している。出席できなかった職員には資料を回覧している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内には様々な施設がある為、それぞれ行き来して情報交換を行ったり、問題点など相談合ったりお互いのサービス向上に繋がられるように努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学、入所の申し込みの段階からご本人様の困り事や要望・施設入所にあたり不安に感じていらっしゃる事柄に耳を傾け、当施設の特性やサービス内容についてしっかりと説明し、ご家族の安心が確保できるよう努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学、入所の申し込みの段階からご家族の困り事や要望・施設入所にあたり不安に感じていらっしゃる事柄に耳を傾け、当施設の特性やサービス内容についてしっかりと説明し、ご家族の安心が確保できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族のお話を聞いたうえで、必要な支援内容を把握しご本人、ご家族と一緒に支援が受けられる施設について考えている。あらゆる選択肢を分かりやすく説明している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とご利用者が暮らしを共にし、何事にも一緒に取り組み家族の一員であるという意識を持っている。職員はご利用者様から様々な事を学び、ご利用者には必要なケアを提供し支え合っている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、ご家族に写真と共に1か月間の様子などの手紙を送っている。ご家族との連絡を密に行い、ご利用者とご家族の絆を大切にしながら、職員の一方的な考えの支援ではなく、ご家族の思いや要望も支援内容に取り入れている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親しい友人、近所の方の来訪がある。その際は一緒にゆっくり過ごせるような環境を整えている。来られた際は記念写真を撮り、その後も思い出せるようにアルバムに綴じている。	家族の面会や親戚の人、近所の人、友人などの来訪があり、来訪時には写真を撮って思い出づくりや会話のきっかけづくりに活用している他、はがきや電話での交流を支援している。地域の行事で会って会話を楽しんだり、地元の有線テレビを見て馴染みの人や場所の話をしたりしている。自宅周辺のドライブや、馴染みの店での買い物や美容院の利用を支援している。家族の協力を得て、思い出のある衣類や靴、自宅に咲く花を持ってきてもらったり、墓参りや法事への参加、一時帰宅、外食など、一人ひとりの馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者同士の関係を把握し、作業で共同作業を行ったり、日々の役割分担等で利用者同士が協力し合えるように、孤立する人がいないように配慮している。心理状態にも配慮している。		
23		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後(当施設では特養に移動など)はこれまでの関係を断ち切らないように定期的に会いに行ったり、ご家族にお会いした時には困りごとなどの相談に乗るよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の思いを訴えることが出来る方には日々の関わりの中で思いや意向を聞き、本人の意向にそったケアを行うようにしている。自分の思いを訴えることが難しい利用者については日頃の言動や表情の変化を読み取り対応している。	入居時の情報(生活歴、生活環境、馴染みの暮らし方等)や日頃の様子を、「ケースダイアリー」や「伝達ノート」に記録して共有し、職員間で話し合って「私の姿と気持ちシート」にまとめて、思いや意向を把握するよう努めている。困難な場合は、本人本位に検討し、思いや意向を把握するよう努めている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の面談の際、これまでの生活歴や生活環境、なじみの暮らしなどご本人、ご家族から情報収集し把握に努めている。また、面会に来られた方にもこれまでの思い出など聞き把握を行っている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態を把握し、その人に合った時間の過ごし方を支援している。一人ひとりの有する力に応じて、出来ること出来ない事を把握しやりがいを持って生活出来るように支援している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の思いや日々の様子の中で気付き・課題を含めケースダイアリーや伝達ノートに記録し、月1回の職員会議、ケアカンファレンスで話し合っている。モニタリングも毎月行っている。	管理者と計画作成担当者が中心となって、月1回の職員会議(ケアカンファレンス)やサービス担当者会議で話し合い、本人の思いや意向、家族の要望、主治医の意見などを反映した介護計画を立てている。月1回、管理者と計画作成担当者が短期目標をモニタリングし、6ヶ月に1回見直しを行う他、利用者の状態の変化に応じてその都度見直しを行って、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果等はケースダイアリーに記録し、職員間は伝達ノートで気づきや情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。日々の状態の変化もその都度職員同士で話し合い対応している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方のご家族と本人の状況、その時々生まれた課題に対しては、その都度職員間で話し合い、柔軟に多様な支援方法を検討し取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりを支えている地域資源を把握し、ご本人が地域資源を活用出来、安心して豊かな暮らしが出来るように支援を行っている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族の希望する医療機関を継続してかかりつけ医としている。多様な医療機関への受診も対応している。同法人にはクリニックがあり、嘱託医やかかりつけ医による往診などの対応が出来る体制がとれている。	本人や家族の希望する医療機関をかかりつけ医とし、協力医療機関をかかりつけ医とする人は週1回、その他のかかりつけ医は2週に1回の訪問診療がある。他科受診は家族の協力を得ている他、本人の状況に応じて事業所が受診支援をしている。受診結果は家族に月1回のお知らせや必要に応じて電話で報告し、職員間では「伝達ノート」で情報を共有している。緊急時や夜間は協力医療機関と連携を取り、拠点の医務室や看護師と情報を共有して、適切な医療が受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、同施設内の看護師に伝え相談し、個々の利用者が適切な受診や医療を受けられるよう支援している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、安心して治療が出来るように、また、出来るだけ早期に退院できるように定期的にお見舞いに行き、病院での様子を伺い、病院関係者との関係作りを行っている。日頃から各病院の地域連携室との関係作りを行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族と話し合いを行い、事業所で出来ることを説明し方針を立てている。同施設内には特養を併設している為、お互いに情報共有しながらチーム支援に取り組んでいる。	契約時に移設も含めて事業所でできる対応について説明している。実際に重度化した場合には早い段階から、かかりつけ医や拠点施設の看護師の意見を聞いて家族と話し合い、職員もその都度方針を共有して支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組む、急変や事故発生に備えて職員会議の際に勉強会も行い、応急手当や初期対応の訓練を1年に2回施設内研修として行い救急救命士から指導を受けている。	事例が生じた場合はその日の職員で話し合い、事故・ヒヤリハット報告書を作成し、伝達ノートにコピーを添付して全職員に回覧している。職員会議で再検討し、対応策を介護計画に反映させて、利用者一人ひとりに合わせた事故防止に取り組んでいる。幹部会議で報告し、必要に応じて拠点の事故防止委員会で検討している。拠点事業所合同で年2回、元消防隊員(救急救命士)から緊急時の対応やAED、心肺蘇生実技の指導を受ける他、内部研修で年2回、事故防止について学んでいるが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につける為の定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害等の災害時には、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が定期的話し合い、施設全体でも訓練を実施している。地域運営推進会議等で地域住民への協力を依頼している。	マニュアルがあり、年3回(内2回は消防署の協力を得て)、拠点施設合同で昼夜を想定した消防、防災訓練(通報、消火、避難誘導、防災設備の点検)を利用者も参加して行っている。運営推進会議メンバーの消防署職員から出火原因となるコンセントの埃の除去などの指導を受け点検している。家族や地域の人へ訓練への参加案内をしているが、参加を得るにはいたっていない。法人他施設と地域の連携協力を得るための働きかけについて協議しているが、協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に心掛けている。時に言葉掛けや対応が馴れあいになることがある為、職員同士で注意し、反省を行っている。人生の先輩であることを念頭におき対応している。	利用者を人生の先輩として尊敬の念をもって接し、人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。気になるころがあれば、その都度管理者が注意したり、職員同士で話し合っている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いや希望が言いやすい環境、雰囲気を作るように努めている。信頼関係を築き、自己決定が出来るように働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その1日をどう過ごしたいか、余暇活動や日々の運動も職員側の都合を優先するのではなく、本人のペースやその日の体調、思いにそった支援をしている。希望をしっかりと聞き対応している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るように衣服を選んだり、化粧水や身だしなみに必要な道具については本人の使いやすい物を使用していただけるように支援している。散髪やカラー、パーマ等も要望を聞いている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当法人にキッチンセンターがある為、月曜～土曜日の昼食、夕食はキッチンセンターから届く。朝食、日曜日は職員による手作りの食事を提供している。ご利用者と一緒に献立を考えたり、準備や片付けも協力して行っている。	月曜日から土曜日の昼食と夕食は、法人の配食を利用している。朝食と日曜日の食事は、差し入れの旬の食材を活用し、利用者の食べたいメニューを参考に献立を立て、事業所で調理している。利用者は職員と一緒に下ごしらえや味見、盛りつけ、テーブル拭き、配膳、下膳など、できることを行っている。お誕生日食(本人が好きなもの)や行事食(おせち、節分、ひな祭り、敬老祝賀会、忘年お楽しみ会など)、花見弁当、外食(道の駅、ファミリーレストラン)、パン屋での買物、吊し柿づくり、切り干し大根づくり、おやつづくり(たこ焼き、焼きそば、プリン、栗の皮むきなど)、外のベンチでのおやつタイム、家族の協力を得ての外食など、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの身体状況に応じて食べる量や栄養バランスを考えて提供している。摂取出来なかった時は、後で本人が食べやすい物を提供している。毎食後、入浴後、10時、15時、19時にもティータイムとして水分をすすめている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	寝る前と起床時には必ずご本人に応じた口腔ケア(入れ歯洗浄・歯磨き・うがい)を実施している。それ以外にも、毎食後に緑茶を出し口腔内が清潔になるように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、一人ひとりの身体状況や表情、排泄パターン・週間を把握し、トイレでの排泄を心掛けている。その際にはご本人の自尊心を傷つけないように誘導のタイミングや言葉掛けを工夫している。	排泄チェック表でパターンを把握し、自尊心や羞恥心を損なわないよう、一人ひとりに合わせた声かけや誘導を行って、トイレでの排泄や自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状態を出来るだけ把握出来るように努めている。薬には出来るだけ頼らず、毎日の体操、飲食物の工夫など便秘予防に努めている。状況に応じ、主治医に相談し内服薬を使用する場合もある。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの希望の時間や身体状況に合わせて入浴が楽しめるように努めている。湯加減もご本人の好みに合わせゆったりとくつろげるように心掛けている。入浴以外でも清拭や部分浴など臨機応変に対応している。	毎日、時間は特に決めず、本人の希望やタイミングに合わせて週2回から3回、入浴できるよう支援している。入浴したくない人には無理強いをせず、声かけを工夫するなどしている。入浴しない日は足浴や部分浴、清拭等の対応をしている。職員とおしゃべりや歌を歌うことを楽しんだり、季節の柚子湯、入浴後の保湿剤を使用するなど、一人ひとりが入浴を楽しめるように支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの身体状況、生活習慣を把握し、無理なく休息したり、安心して気持ちよく眠れるように支援している。夜間よく眠れるように、日中にあまり寝込まれないよう配慮している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情はケースに綴じて、職員がいつでも確認出来るようにしている。その人に応じた服薬の支援と症状の変化の確認にも努めている。また飲み忘れ、誤薬が無いように職員間でダブルチェックを行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から一人ひとりの性格、出来ることを職員が理解し、それぞれが進んで役割分担を行なえるようにしている。張り合いを持って生活出来、活躍出来る場面を作る支援している。誕生日には本人の食べたい物をお聞きし提供している。	季節の行事(餅つき、初釜の会、新年お楽しみ会、節分豆まき、ひな祭り、母の日会、唯心花祭り、同朋の園夏祭り、納涼祭、敬老祝賀会、ともの園フェスタ、忘年お楽しみ会など)、お誕生日会、ボランティア(コーラス、日本舞踊、銭太鼓、フラダンス、3B体操など)の来訪、習字教室、地域の僧侶による法話、近隣の幼稚園との交流、新聞や雑誌を読む、読み聞かせ、テレビやラジオの視聴、有線テレビを視聴し地域情報を得る、歌を歌う、カラオケ、脳トレ、パズル、連想ゲーム、季節の壁面飾り作り、折り紙、ちぎり絵、貼り絵、ぬり絵、椅子体操、ラジオ体操、リズム体操、口腔体操、ストレッチ、ボーリング、輪投げ、花壇に花を植える、畑づくり(トマト、しそ等)、プランターや花の水やり、草取り、調理の準備や片付け、おやつづくり、切り干し大根や干し柿づくり、雑巾縫い、新聞折り、ウエス作り、洗濯物干し、洗濯物たたみ、居室の掃除等、楽しみごとや気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望にそって、散歩や買い物・ドライブ等戸外に出かけられるように支援に努めている。家族や知人とも出かけられるように支援している。ご家族との外出では、事前に最近の体調などお知らせし、外食や墓参り、自宅で過ごしたりしている。	月1回、外出ドライブの日を設け、桜の花見、菊川道の駅での外食、パン屋での買物、ファミリーレストランでの外食、美東の道の駅ドライブ、大型店舗での買物、大寧寺の紅葉狩りなどに出かけている。事業所周辺の散歩、食材の買い出し、花壇やプランターの水やり、草取り、家族の協力を得ての墓参り、法事への参加、一時帰宅など、日常的に戸外に出かけられるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じて、またご家族の意向をお聞きし、ご本人がお金を所持したり使えるように支援している。外出時、買い物タイムの時は、お預かりしているお金からご自分で支払いをするという支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所有しているご利用者もあり自由に家族や友人に電話をかけている。それ以外でも、ご本人が希望されれば、ご家族に電話をかけたり出来るよう支援している。葉書を書き送った所、返事が届きとても喜ばれていた。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねく事が無いように配慮している。共有スペースは季節感を大切に季節に合った生花や作品を展示したり、行事やお出かけの際の思い出の写真を掲示している。換気や室温調整もしっかり行っている。	居間兼食堂の入り口には利用者の生け花作品を飾り、食卓や洗面所などには家族や親戚、職員からの差し入れの季節の花を飾っている。窓からは陽が差し込み、利用者が育てている青々と育った野菜が見える。壁には貼り絵や折り紙、ちぎり絵など季節ごとに利用者が作成した作品を貼って季節や親しみを感じられるよう工夫している。台所から調理の音や匂いがして、家庭的な雰囲気がある。食卓やテレビの前にソファを置き、広い廊下にもソファを設置して、利用者は思い思いにくつろぐことができる。温度や湿度、換気に配慮し居心地よく過ごすことが出来るように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う仲の良い利用者同士がお互いの居室を自由に行き来したり、一人ゆったり過ごす方々には居室へ誘導している。共有のフロアやソファもご利用者の関係性を把握し居心地よく過ごせるように配慮している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人やご家族と相談しながら、使い慣れたものや好みの物を自由に持ち込んで頂き、居心地よく安全に過ごせるように工夫している。思い出の写真や自分の作品を飾り、居心地良い空間作りに心がけている。	ベット、棚、机、椅子、衣装かけ、テレビ、カセットラジオ、回転椅子、位牌、遺影、仏壇、時計、衣類、日用品など使い慣れたものを持ち込み、家族の写真、ぬいぐるみ、本人の作品などを飾って、居心地の良い空間を作っている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者にとって慣れた環境を保つことで自主的に物事を行えたり、混乱することなく安全に自立した生活が送れるように工夫している。希望者された方には居室の前に分かりやすく大きい表札も出している。		

2. 目標達成計画

事業所名 認知症対応型グループホームゆいしん

作成日: 令和 2 年 9 月 4 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	緊急時の対応については元消防隊員(救急救命士)から緊急時の対応やAED、心肺蘇生実技の指導を受ける他、内部研修で年2回、事故防止について学んでいるが、全職員が実践力を身につけるまでに至っていない。	全職員が応急手当の基礎知識・実践力を身につけ、緊急時の初期対応に落ち着いてあたるようにしたい。AEDの設置場所や使用方法を覚える。	・施設内研修の他グループホーム内で定期的な研修を実施する。 ・研修の際はAEDの設置場所と使用方法を覚える。	12ヶ月
2	36	年3回の防災訓練において職員や利用者の参加はあるが家族や知人などの参加はない。家族や地域の人へ参加案内をしているが、参加には至っていない為協力体制を築けていない。	運営推進会議の際に具体的な災害対策や地域との協力体制構築に向けての話し合い、ご家族や地域の方の参加を呼び掛けている。	・運営推進会議の際に防災訓練の実施日程を伝え参加案内を行う。 ・地域の方には利用者の見守りなど具体的な協力の内容と日時を相談し協力を仰ぐ。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。